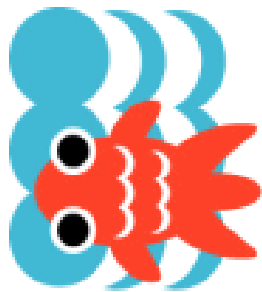


平成30年度決算に基づく

# 財務書類



大和郡山市 財政課

## I 財務書類の概要

### 1. 財務書類について

大和郡山市では平成 20 年度決算から、総務省から示された「新地方公会計制度研究会報告書」（平成 18 年 5 月 18 日）及び「新地方公会計制度実務研究会報告書」（平成 19 年 10 月 17 日）に基づき、発生主義を活用し、複式簿記の考え方を導入した総務省方式改訂モデルにより財務書類（貸借対照表・行政コスト計算書・資金収支計算書・純資産変動計算書）を作成してきました。しかし、決算統計データを活用した総務省方式改訂モデルでは本格的な複式簿記の導入が進まず、公共施設等のマネジメントにも資する固定資産台帳の整備も不十分である等の問題がありました。

このため、総務省において「今後の地方公会計の推進に関する研究会」で議論され、平成 26 年 4 月に、固定資産台帳の整備と複式簿記の導入を前提とした財務書類の作成に関する「統一的な規準」が示されました。

大和郡山市では、平成 29 年度決算より、「統一的な基準」により財務書類を作成しております。

### 2. 財務書類の作成方式

「統一的な基準」により、作成しています。

大和郡山市では、公共施設等のマネジメントにも活用できる固定資産台帳を整備し、発生の都度の複式仕訳により財務書類を作成しております。会計年度の最終日(3月31日)を作成の基準日とし、出納整理期間(4月1日～5月31日)における出納については、基準日までに終了したものとして処理します。

### 3. 財務書類の概略

財務書類には下記の通り、4つの表があります。

#### (1) 貸借対照表

保有している資産とその資産を取得するための財源の調達方法を年度末時点で示した表です。

#### (2) 行政コスト計算書

1年間に提供した行政サービス（資産形成につながるものは除く）の経費とそれに充てる収入（負担金や使用料等）を対比させた表です。

#### (3) 純資産変動計算書

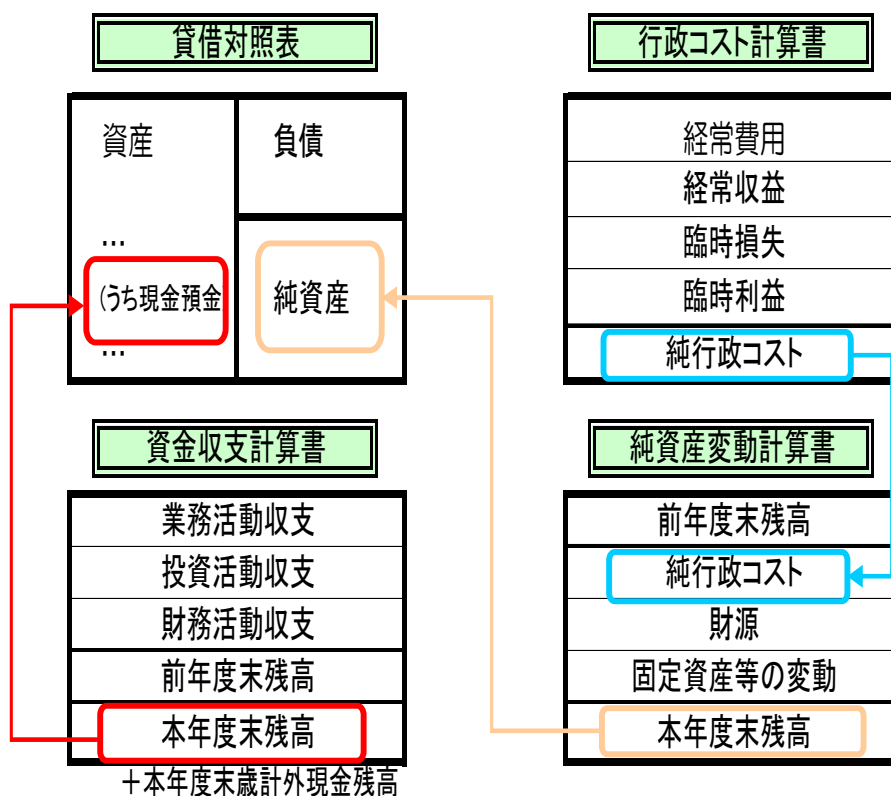
「貸借対照表」の「純資産」の変動を示した表です。変動要因の1つに「純行

「行政コスト」がありますが、「行政コスト計算書」は、その「純行政コスト」の明細を表しているとも言えます。

(4) 資金収支計算書

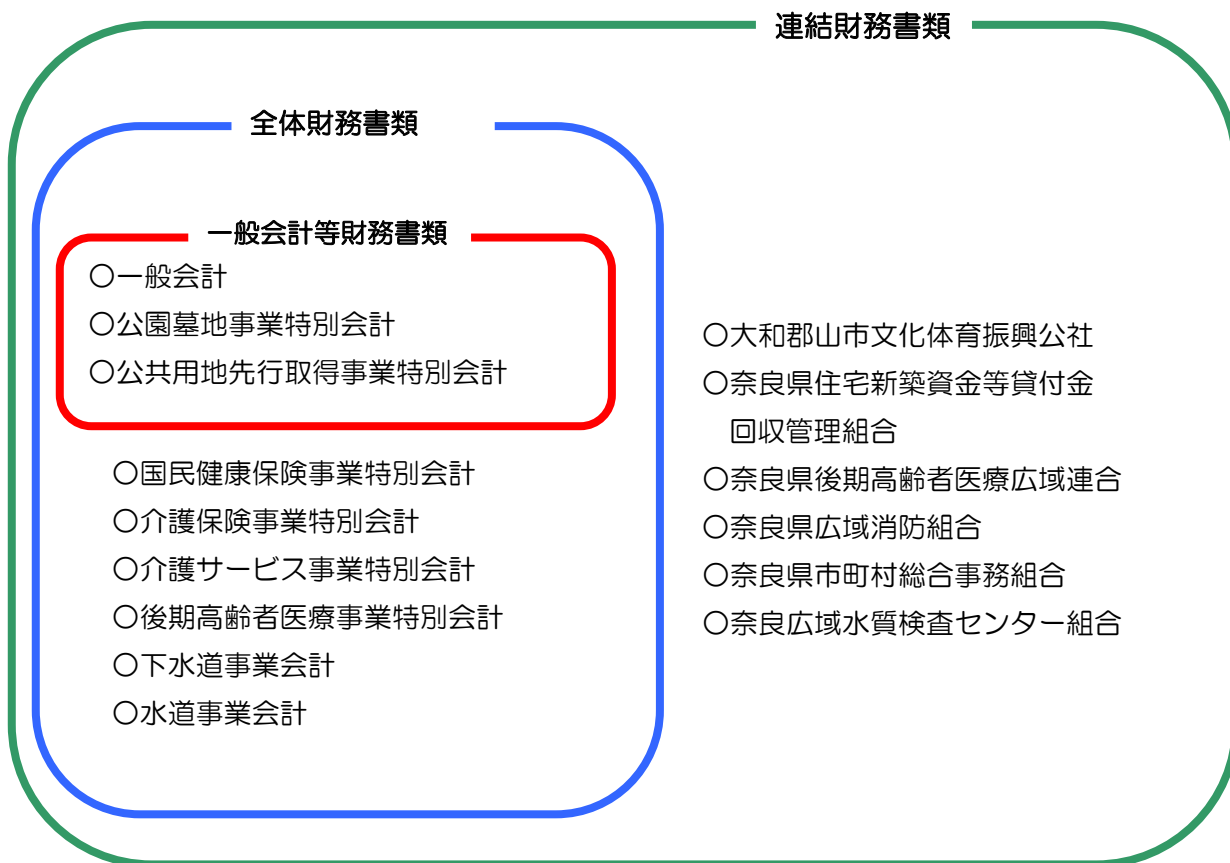
歳計現金の1年間の動きを示しています。「期末現金預金残高」は、「貸借対照表」の「現金預金」と一致します。

4つの表の関係は次の図のようになります。



### 3. 財務書類と会計区分

財務書類は一般会計等財務書類、全体財務書類、連結財務書類を作成しています。各財務書類に属する会計は下図のとおりです。



次頁より一般会計等財務書類の要旨について記載します。なお、一般会計等財務書類、全体財務書類、連結財務書類それぞれの詳細なデータは、大和郡山市ホームページに掲載しております。

※表示金額は千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

## Ⅱ 一般会計等財務書類の要旨

### 1. 貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表とは、会計年度末時点で、大和郡山市がどのような資産を保有しているのかと（資産保有状況）、その資産がどのような財源でまかなわれているのかを（財源調達状況）対照表で示したものです。貸借対照表により、基準日時点における大和郡山市の資産・負債・純資産といったストック項目の残高が明らかにされます。

「資産」は、資金流入をもたらすもの、行政サービス提供能力を有するものに整理されます。

「負債」とは、将来、債権者に対する支払や返済により地方公共団体から資金流出をもたらすものであり、地方債がその主たる項目です。

「純資産」は、資産と負債の差額ですが、民間企業のように資本の獲得等に関する取引の結果ではありません。

#### ◆ 用語の説明

有形固定資産	： 学校等の事業用資産、道路等のインフラ資産、50万円以上の物品等
無形固定資産	： ソフトウェア等の資産
投資及び出資金	： 債券及び株式並びに関係団体への出資金
長期延滞債権	： 地方税等の未収金のうち、1年を超えて回収されていない物
徴収不能引当金	： 収入未済額のうち将来徴収不能と見込まれる額
流動資産	： 現金、必要に応じてすぐ使える基金等
未収金	： その年度の歳入として調定したが、まだ収入のない税等
地方債	： 資金調達のための借入で、債務の履行が一会計年度を超えるもの
退職給与引当金	： 全職員が年度末に退職したと仮定した場合の退職手当見込み額
1年内償還予定地方債	： 地方債のうち翌年度償還予定額
純資産	： 資産形成に充てられた、返済の必要ない財源

行政サービスを提供するための公  
共施設等の固定資産や将来、行政サ  
ービスに使用する現金等の資産

地方債など、将来世  
代の負担

### 貸借対照表

(平成31年 3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	89,615,602	固定負債	37,421,343
有形固定資産	83,599,734	地方債	33,245,497
事業用資産	64,738,798	長期未払金	-
土地	33,568,878	退職手当引当金	4,159,651
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	65,458,763	その他	16,194
建物減価償却累計額	△ 35,328,168	流動負債	5,319,808
工作物	5,126,686	1年内償還予定地方債	3,963,282
工作物減価償却累計額	△ 4,510,152	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	334,341
航空機	-	預り金	1,011,183
航空機減価償却累計額	-	その他	11,002
その他	-	負債合計	42,741,151
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	422,789	固定資産等形成分	92,597,231
インフラ資産	18,482,746	余剰分(不足分)	△ 41,071,711
土地	13,757,345		
建物	1,539,982		
建物減価償却累計額	△ 935,007		
工作物	75,773,310		
工作物減価償却累計額	△ 71,727,629		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	74,745		
物品	1,708,924		
物品減価償却累計額	△ 1,330,734		
無形固定資産	4,545		
ソフトウェア	4,545		
その他	-		
投資その他の資産	6,011,323		
投資及び出資金	2,363,791		
有価証券	-		
出資金	2,363,791		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	1,103,599		
長期貸付金	223,079		
基金	2,358,093		
減債基金	-		
その他	2,358,093		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 37,239		
流動資産	4,651,068		
現金預金	1,536,044		
未収金	141,209		
短期貸付金	23,381		
基金	2,958,247		
財政調整基金	2,415,129		
減債基金	543,118		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 7,813		
資産合計	94,266,671	純資産合計	51,525,520
		負債及び純資産合計	94,266,671

過去又は現世代の負担

- ・固定資産等形成分・・・資産形成のために充当した資源の蓄積
- ・余剰分(不足分)・・・消費可能な資源の蓄積(例：現金預金)

## 2. 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、一会計期間において、資産形成に結びつかない経常的な行政活動に係る費用（経常的な費用 例えは人件費・物件費・補助金・社会保障給付等）と、その行政活動と直接の対価性のある使用料・手数料などの収益（経常的な収益）を対比させた財務書類です。

経常的な費用と収益の差額によって、地方公共団体の一会計期間中の行政活動のうち、資産形成に結びつかない経常的な活動について税金等でまかなうべき行政コスト（純経常行政コスト）が明らかにされます。

### ◆ 用語の説明

賞与等引当金繰入金	： 期末手当・勤勉手当等のうち当期に発生する費用
退職手当引当金繰入金	： 将来の退職金支給に備えて当期に負担すべき金額
物件費	： 光熱水費、消耗品、通信費、委託料、使用料賃借料、備品 購入費など
維持補修費	： 公共施設等の維持修繕に要する費用
減価償却費	： 資産が経年劣化に伴い、価値が減少したと認められる額
支払利息	： 地方債や一時借入金の利子
徴収不能引当金繰入額	： 徴収不能引当金の当該年度発生額
補助金等	： 市民や団体への補助金、負担金
社会保障給付	： 生活保護や医療費助成性などの扶助費
臨時損失	： 災害復旧費や資産売却損など
臨時利益	： 資産売却益など

# 行政コスト計算書

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	25,586,155
業務費用	13,104,260
人件費	4,702,854
職員給与費	3,892,968
賞与等引当金繰入額	334,341
退職手当引当金繰入額	256,691
その他	218,854
物件費等	8,012,598
物件費	5,351,737
維持補修費	337,361
減価償却費	2,323,500
その他	-
その他の業務費用	388,808
支払利息	280,264
徴収不能引当金繰入額	22,599
その他	85,945
移転費用	12,481,895
補助金等	2,972,142
社会保障給付	6,846,140
他会計への繰出金	2,657,133
その他	6,480
経常収益	937,868
使用料及び手数料	590,139
その他	347,729
純経常行政コスト	24,648,287
臨時損失	196,141
災害復旧事業費	39,693
資産除売却損	156,136
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	312
臨時利益	14,526
資産売却益	14,526
その他	-
純行政コスト	24,829,902

人件費、物件費、移転費用（補助金）などを発生額で計上

経常的に発生する費用から、使用料及び手数料といった受益者負担収益を差し引くことで純経常行政コストを算定

臨時に発生する損失、利益を加味して純行政コスト（税を主とする一般財源等で賄うべきコスト）を算定



### 3. 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、1年間でどのように変動したかを表す財務書類です。

純資産変動計算書においては、地方税、地方交付税などの一般財源、国県支出金などの特定財源が純資産の増加要因として直接計上され、行政コスト計算書で算出された費用（純行政コスト）が純資産の減少要因として計上されることなどを通じて、1年間の純資産総額の変動が明らかになります。また、固定資産等の変動により、純資産の変動要因が分かります。

#### ◆ 用語の説明

前年度末純資産残高	：前年度末の純資産の額
純行政コスト	：行政コスト計算書により算定される数値
税収等	：地方税、地方交付税及び地方譲与税など
国県等補助金	：国庫支出金及び県支出金等
有形固定資産等の増加	：有形無形固定資産の形成による保有資産の増加、または有形無形固定資産の形成のために支出した額
有形固定資産等の減少	：有形無形固定資産の減価償却や売却等による減少額、または有形無形固定資産の売却収入等
貸付金・基金等の増加	：貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額、または貸付金・基金等の形成のために支出した額
貸付金・基金等の減少	：貸付金・基金等の取崩しによる減少額、または貸付金・基金等の取崩収入相当額
資産評価差額	：有価証券等の評価差額
無償所管換等	：無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等

## 純資産変動計算書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	50,451,502	93,771,857	△ 43,320,355
純行政コスト (△)	△ 24,829,902	/	△ 24,829,902
財源	25,827,315	/	25,827,315
税収等	18,887,721	/	18,887,721
国県等補助金	6,939,593	/	6,939,593
本年度差額	997,412	/	997,412
固定資産等の変動 (内部変動)	/	△ 1,251,232	1,251,232
有形固定資産等の増加	/	4,249,061	△ 4,249,061
有形固定資産等の減少	/	△ 5,971,622	5,971,622
貸付金・基金等の増加	/	1,666,372	△ 1,666,372
貸付金・基金等の減少	/	△ 1,195,042	1,195,042
資産評価差額	-	-	/
無償所管換等	76,605	76,605	/
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	1,074,018	△ 1,174,626	2,248,644
本年度末純資産残高	51,525,520	92,597,231	△ 41,071,711

純行政コストの金額に対して、税収及び国の補助金等受入の金額がどの程度あるかを見ることにより、受益者負担以外の財源によりどの程度賄われているかを把握

#### 4. 資金収支計算書

資金収支計算書は、一会計期間における、地方公共団体の行政活動に伴う現金等の資金の流れを性質の異なる三つの活動に分けて表示した財務書類です。現金等の収支の流れを表したものであることから、キャッシュ・フロー計算書とも呼ばれます。

現金収支については、現行の歳入歳出決算書においても明らかにされますが、資金収支計算書においては、「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」という性質の異なる三つの活動に大別して記載され、地方公共団体の資金が期首残高から期末残高へと増減した原因が明らかにされるのが特徴です。

#### ◆ 用語の説明

業務活動収支	： 経常的な行政活動の収支で、他の収支に含まれないもの
投資活動収支	： 公共資産の整備にかかるものや、投資・貸付金等の収支
財務活動収支	： 地方債等の元利償還、発行額などの収支
業務費用支出	： 人件費・物件費・地方債の利息等の支出等
移転費用支出	： 補助金・社会保障給付費・他会計への繰出金等の支出等

#### 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く。）及び投資活動収支の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標となり、当該バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営が実現できていると捉えることができます。

#### 算定式

$$\begin{aligned} \text{基礎的財政収支} &= \text{業務活動収支（支払利息支出を除く。）} + \text{投資活動収支} \\ &= 2,552,147 \text{千円} \end{aligned}$$

# 資金収支計算書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	23,279,703
業務費用支出	10,797,808
人件費支出	4,695,055
物件費等支出	5,755,625
支払利息支出	280,264
その他の支出	66,865
移転費用支出	12,481,895
補助金等支出	2,972,142
社会保障給付支出	6,846,140
他会計への繰出支出	2,657,133
その他の支出	6,480
業務収入	26,509,303
税収等収入	18,930,187
国県等補助金収入	6,652,523
使用料及び手数料収入	586,159
その他の収入	340,433
臨時支出	39,693
災害復旧事業費支出	39,693
その他の支出	-
臨時収入	28,655
<b>業務活動収支</b>	<b>3,218,561</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	1,598,850
公共施設等整備費支出	788,021
基金積立金支出	468,382
投資及び出資金支出	320,000
貸付金支出	22,447
その他の支出	-
投資活動収入	652,172
国県等補助金収入	258,415
基金取崩収入	259,250
貸付金元金回収収入	49,129
資産売却収入	85,379
その他の収入	-
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 946,678</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	4,220,191
地方債償還支出	4,204,535
その他の支出	15,656
財務活動収入	1,972,328
地方債発行収入	1,972,328
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 2,247,863</b>
<b>本年度資金収支額</b>	<b>24,020</b>
<b>前年度末資金残高</b>	<b>500,841</b>
<b>本年度末資金残高</b>	<b>524,860</b>
<b>前年度末歳計外現金残高</b>	<b>931,246</b>
<b>本年度歳計外現金増減額</b>	<b>79,937</b>
<b>本年度末歳計外現金残高</b>	<b>1,011,183</b>
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>1,536,044</b>

経常的な活動に関する収支を集計

支出…人件費、旅費、需用費、  
補助金、扶助費等  
収入…税収、補助金収入、使用料・  
手数料等

投資的な活動に関する収支を集計

支出…公共事業や施設整備等、  
基金積立、貸付金等  
収入…補助金収入、基金取崩、  
貸付金回収等

財務的な活動に関する収支を集計

支出…地方債償還等  
収入…地方債発行等